

## 第三セクター等経営健全化方針（奥中山高原株式会社）

### 1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和5年12月22日  
作成担当部署 一戸町産業部商工観光課

### 2 第三セクター等の概要

法人・代表者名 奥中山高原株式会社 代表取締役 小野寺 美登  
所在地 岩手県二戸郡一戸町奥中山字西田子662番地1  
設立年月日 平成24年8月30日  
資本金 50,150千円【一戸町の出資額（出資割合） 50,000千円（99.7%）】  
業務内容 スキー場、温泉、飲食及び宿泊等各施設の管理運営

### 3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの一戸町の関与

奥中山高原株式会社（旧社名 奥中山高原リゾート公社株式会社。以下「会社」という。）は、スキー場、温泉、飲食及び宿泊等の機能を有する複合的な施設の管理運営を目的に設立され、平成24年度から指定管理者として管理運営に当たっている。

平成24年度以降の施設利用者数は概ね18万人前後で推移してきたが、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大を理由に臨時に施設を休業し、あるいは外出自粛が長期にわたり利用者が大幅に減少するなどして、経営状況に過大な影響を与えた。結果、新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた第9期決算において債務超過の状況となった。

指定管理者による管理運営がスタートして以来、町においては指定管理料の支出や、老朽化を起因とする修繕に対し負担してきたが、第12期の事業開始に当たり、当該施設は町民福祉の増進と交流の場として極めて重要であるとの判断と、物価高騰下でのサービスレベルと快適性の維持のために指定管理料の増額を図ったところである。

なお、町は会社から定期的に報告を受けるとともに、会社内における改善委員会にも同席して、売上確保や費用改善に向けた取組、利用者数の推移及び収支状況等を把握し、適宜指示・指導を行っており、今後においても継続することとしている。

### 4 法人の財務状況

#### 【貸借対照表】

（単位：千円）

科 目	第6期 (H28.10.1~ H29.9.30)	第7期 (H29.10.1~ H30.9.30)	第8期 (H30.10.1~ R1.9.30)	第9期 (R1.10.1~ R2.9.30)	第10期 (R2.10.1~ R3.9.30)	第11期 (R3.10.1~ R4.9.30)	第12期 (R4.10.1~ R5.9.30)
資産総額	80,645	68,535	40,889	51,028	33,423	27,760	38,194
（うち現預金）	62,502	36,127	13,154	20,230	9,214	4,440	14,472
（うち売上債権）	8,358	11,529	5,303	6,747	3,269	5,544	4,764
（うち棚卸資産）	6,623	6,817	8,546	5,956	5,512	6,872	5,525
負債総額	28,149	20,825	35,080	95,818	104,597	124,882	129,324
純資産額	52,496	47,710	5,809	△ 44,790	△ 71,174	△ 97,122	△ 91,130

【損益計算書】

(単位：千円)

科 目	第6期 (H28.10.1～ H29.9.30)	第7期 (H29.10.1～ H30.9.30)	第8期 (H30.10.1～ R1.9.30)	第9期 (R1.10.1～ R2.9.30)	第10期 (R2.10.1～ R3.9.30)	第11期 (R3.10.1～ R4.9.30)	第12期 (R4.10.1～ R5.9.30)
売上高①	289,253	258,377	254,389	211,600	207,056	250,791	294,157
原価・販管費②	282,810	282,627	315,558	286,617	271,916	306,721	315,707
営業損益③ (①－②)	6,443	△ 24,250	△ 61,169	△ 75,017	△ 64,860	△ 55,930	△ 21,550
営業外損益④	1,334	19,648	19,454	26,802	38,662	30,167	27,773
経常損益⑤ (③＋④)	7,777	△ 4,602	△ 41,715	△ 48,215	△ 26,198	△ 25,763	6,223
特別損失・税⑥	427	185	185	2,385	185	185	232
当期純損益⑦ (⑤－⑥)	7,350	△ 4,787	△ 41,900	△ 50,600	△ 26,383	△ 25,948	5,991

※第7期から第10期において、決算報告では指定管理料及び国町補助金等は売上高に計上していたが、本表では営業外損益に算入している。

5 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

町民の福利厚生のある場であると同時に、観光地域づくりの中心的役割を担うこの事業は不可欠なものとなっている。

そのため、町においては指定管理料の支出に加え、施設の多くが30年を経過することを考慮し、施設の保持に関しては積極的に町が関与することで、会社においては営業損益の改善に集中できる環境を創出し、長年町民から愛されている事業の維持継続を図ろうとするものである。

なお、第12期は積極的な売上促進と徹底的な経費削減が功を奏し、利用者増とそれによる売上高の増加、そして営業損益の大幅な改善となり6年ぶりの黒字決算を果たしたが、債務超過、累積赤字の状態が継続している状況である。

会社では令和5年12月、「中期経営計画」を作成したが、数値計画の達成のための事業戦略及び組織・要員戦略等を着実に推進するものであり、町にあっては、会社において損益の改善基調が堅持され、早期に債務超過、累積赤字の解消が図られるよう上記関与に加え、その他継続的な指導・協議をもって目標達成を支援するものである。

6 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

(1) 安全・安心な施設づくりへの取組

整備から30年を経過する施設が多くなっていることから、利用者に不便を強いることが多くなっている。町では令和5年度、「奥中山高原リニューアル検討委員会」を開催し、利用者、旅行者、管理運営者のそれぞれの目線からリニューアルに対する意見を受け、基本方針を定めたことから、その具体的改修内容、スケジュール等を今後決定することとしている。

(2) 増収増益に向けての取組

スキー事業による冬季の着実な利益確保と、グリーンシーズンでの新たな顧客の獲得と平均消費額の向上による収益改善を図るため、町とともに、各施設で提供するサービスの定期的評価と見直し検討を行うものである。

一方で、スキー事業に傾く売上高構成比（現状：冬65%/夏35%）の改善を図り、年間での平均した利益を確保するために、グリーンシーズンの売上確保を強化するものである。（目標：冬60%/夏

40%)

① 宿泊部門

オールシーズンの利用客拡大のため、季節やターゲットごとの宿泊プラン（域内外、世代、合宿、ミニ湯治など）を販売するとともに、平均消費額を上げるため、宿泊料金・飲料単価・売店品揃えの見直しを図る。

② 温泉部門

「煌星の湯」は令和6年12月に開業30年を迎えるが、このような周年企画の展開や、定期的なイベント等により認知度を高め、利用機会を増やす取組を進める。また、大胆な料金設定をし、これまで利用してこなかった町民等への訴求を図る。

さらに、町民福祉、高齢者の健康と生きがい対策に主眼を置いた誘導策も展開する。

③ スキー部門

幅広い世代が利用しやすい料金設定を維持し、県内主要スキー場との差別化を図る。一般利用者の拡大を図るとともに、平日の利用者増を目的とした各種プランの販売や、青森県東部の中学校高校のスキー教室のさらなる誘致を行うとともに、外国人（米軍基地等）の利用拡大を図る。

④ グリーンシーズン

年間20万人超の利用者が見込まれる「県立児童館いわて子どもの森」を起点とし、他の施設との連携から滞在時間の延長を図り、平均消費額の増額を実現する。

また、新たなアクティビティの導入については町も関与することとし、採算性を踏まえ順次導入する。さらに、町も主体となり、大人数で複数日の利用が期待できる大学等のスポーツ合宿の誘致を進める。

(3) 従業員体制の整備及び質的向上への取組

事業戦略に柔軟に対応できる組織とするため、職員個々のマルチ化のための指導・教育を行うとともに、改善委員会の成果や経営理念・ビジョン・行動指針が全職員に共有される組織づくりを進める。

また長年、採用を控えてきており、年齢構成が不均衡となっていることから、改善のため採用活動を実施する。

(4) コスト削減への取組

近年、事業期ごとに光熱費が大幅に増えている現状を踏まえると、これをカバーするために全経費を対象にさらなる削減策を展開しなければならない。また、各部門において調達効率を高めるほか、「発注責任者」の配置により、より「真に必要なものは適正数で購入する」考えのもと、コスト削減を確実に実施するものである。

(5) 町の財政支援に対する基本的な考え

会社は、町において損失補償、債務保証及び短期貸付けを行う法人ではないが、財政規律上、今後においても損失補償等を行わないこととする一方で、指定管理者制度の維持から、指定管理料の明確な充当目的と算定により支出するものである。また、町における観光地域づくりにおける重要施設であることを踏まえ、適切な範囲での業務委託等を行っていくものである。

## 【施設別売上高（目標値）】

（単位：千円）

区 分	第12期 (R4.10.1～ R5.9.30)	第13期 (R5.10.1～ R6.9.30)	第14期 (R6.10.1～ R7.9.30)	第15期 (R7.10.1～ R8.9.30)
センターハウス	102,684	95,500	98,000	105,000
管理センター	54,629	59,100	61,000	64,000
こどもの森	15,504	17,900	20,000	21,000
雪あかり（ジェラートハウス）	16,709	19,300	19,000	20,000
養魚場	9,018	9,700	10,000	11,000
スキー場	85,561	86,000	91,000	98,000
合計	284,105	287,500	299,000	319,000

※第12期は実績値、第13期以降は目標値とする。

※イベントに係る売上高、環境整備及び町道除雪に係る委託料等は除く。

## 【収支額（目標値）】

（単位：千円）

区 分	第12期 (R4.10.1～ R5.9.30)	第13期 (R5.10.1～ R6.9.30)	第14期 (R6.10.1～ R7.9.30)	第15期 (R7.10.1～ R8.9.30)
売上高	294,157	298,000	310,000	330,000
原価・販管費	315,707	312,000	320,000	334,500
営業損益	△21,550	△14,000	△10,000	△4,500
営業外損益	27,773	21,000	21,000	21,000
経常損益	6,223	7,000	11,000	16,500